
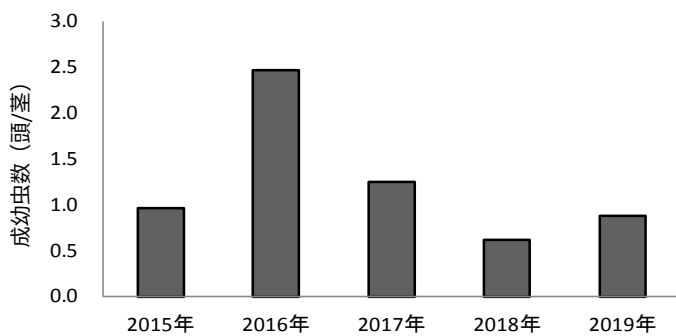
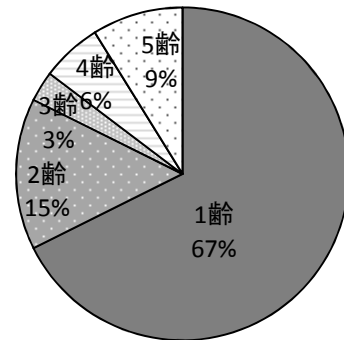


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① カンシャコバネナガカメムシ		
3月の発生量（現況）	やや少		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	冬季に産み付けられた卵がふ化する時期であるため、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



カンシャコバネナガカメムシの3月の発生推移




カンシャコバネナガカメムシの年齢構成

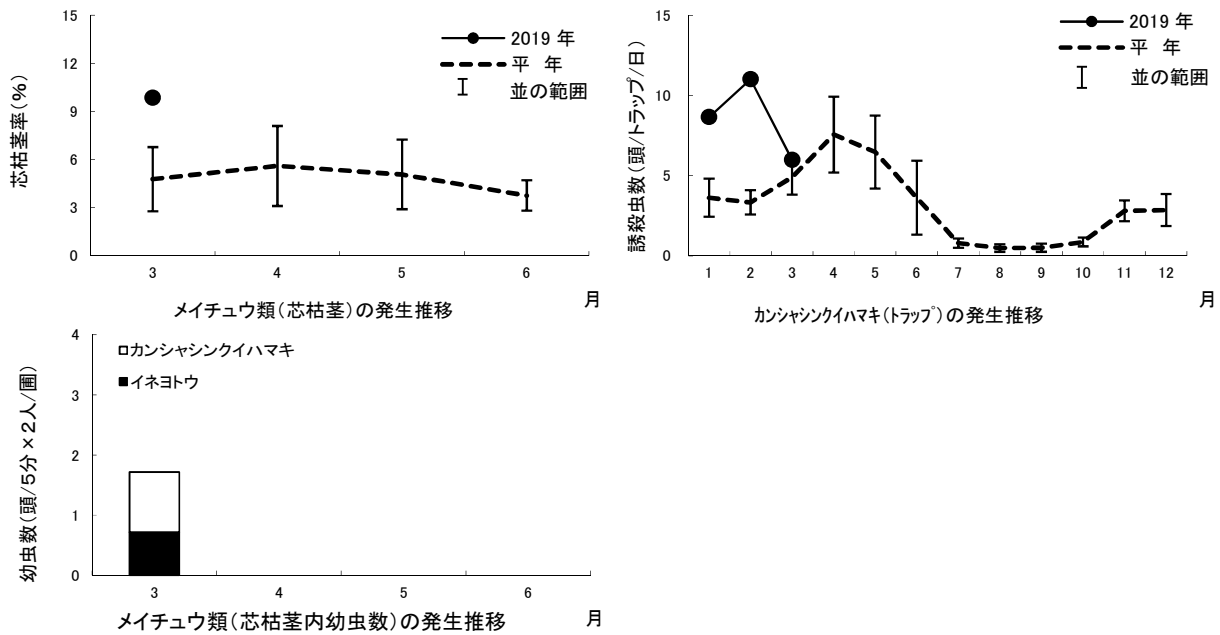
- ・ 調査作型：株出、調査地域：石垣市
- ・ 成幼虫数（頭/茎）：0.9（前年0.5、平年16.5、判定「やや少」）
- ・ 平均齢期（齢）：1.7（前年1.0）

防除のポイント

- ・ 概ね4～6月に第一世代、7～8月に第二世代、9～10月に第3世代が発生するため、防除適期である4～5月上旬に茎当たり虫数が20頭を越えているほ場では、薬剤による防除を行う。
- ・ 前年の夏植や初回の株出しが被害を受けやすいため、葉鞘の隙間などをよく観察する。
- ・ 収穫後は直ちに畝間耕起し、発生源となる放置株をなくす。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
3月の発生量(現況)	多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



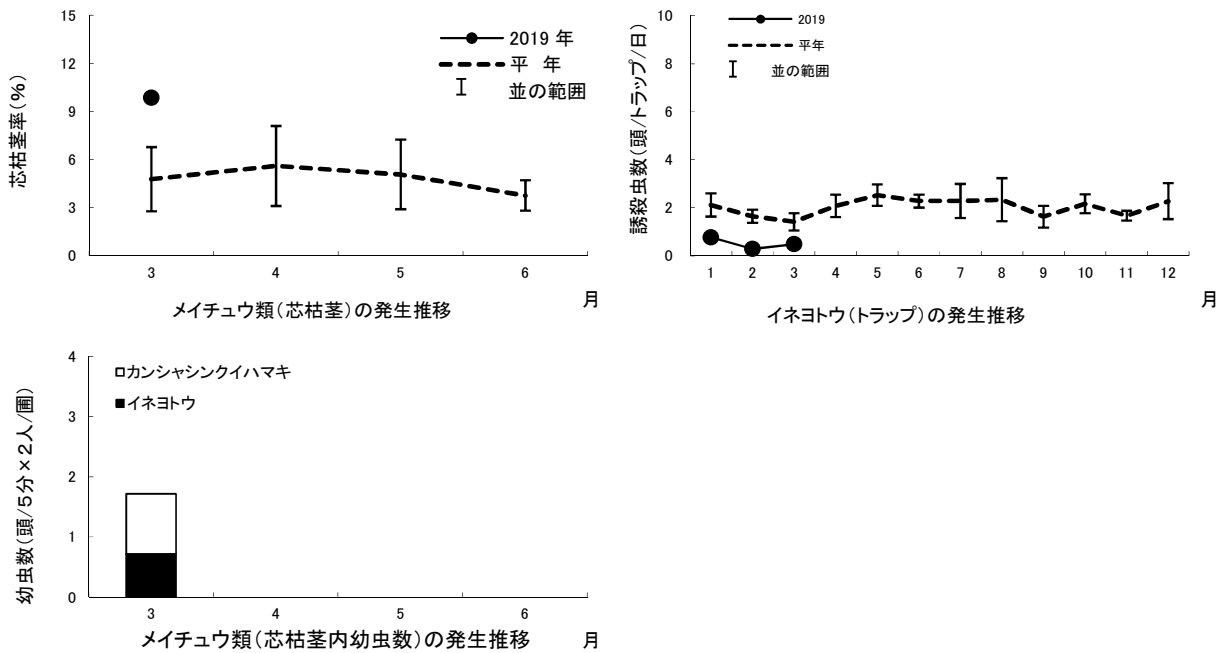
- ・ 調査作型：株出、調査地域：石垣市
- ・ 芯枯茎率(%)：9.9(前年6.0、平年4.8、判定「多」)
- ・ 芯枯茎内幼虫数(頭/5分×2人/圃)：イネヨトウ0.7(41.7%)、カンシャシクイハマキ1.0(58.3%)
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(石垣市、頭/日)：6.0(前年4.6、平年4.9、判定「やや多」)
- ・ 防除員による報告(メイチュウ類)：多発生(波照間島)、少発生(与那国島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植付時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
3月の発生量(現況)	多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



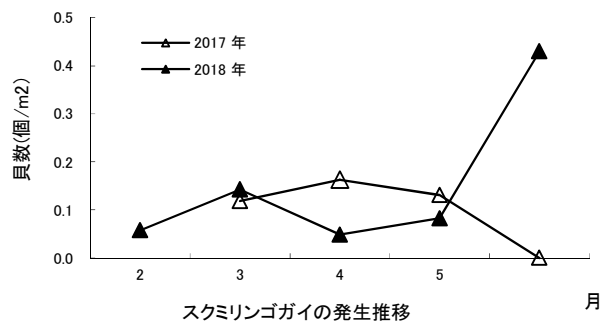
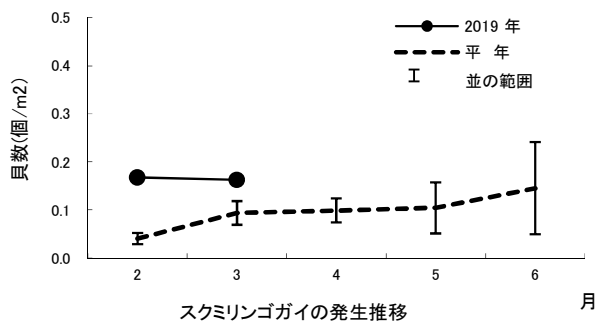
- ・ 調査作型：株出、調査地域：石垣市
- ・ 芯枯茎率(%)：9.9(前年6.0、平年4.8、判定「多」)
- ・ 芯枯茎内幼虫数(頭/5分×2人/圃)：イネヨトウ0.7(41.7%)、カンシャシンクイハマキ1.0(58.3%)
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(石垣市、頭/日)：0.5(前年1.4、平年1.2、判定「少」)
- ・ 防除員による報告(メイチュウ類)：多発生(波照間島)、少発生(与那国島)

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は茎と葉元の間で散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植付時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリングガイ		
3月の発生量(現況)	多		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	貝数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



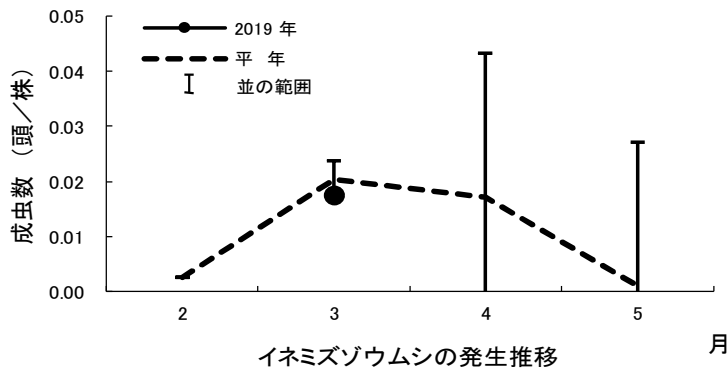
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 貝数(頭/m²)：0.2(前年0.1、平年0.1、判定「多」)
- ・ 発生ほ場率(%)：68.8(前年81.3)

防除のポイント

- ・ 貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。
- ・ 取水口に侵入防止網(目合6~9mm程度)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② イネミズゾウムシ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



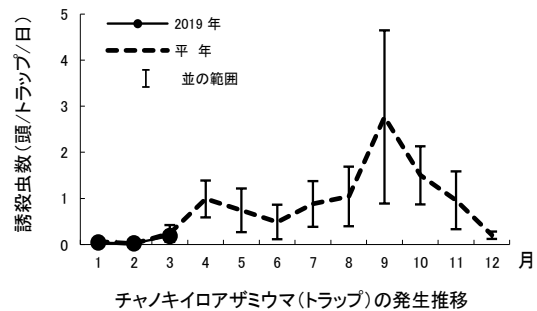
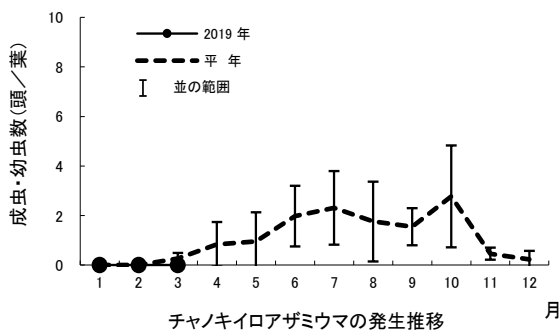
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫数(頭/株)：0.02(前年0、平年0.02、判定「並」)
- ・ 発生ほ場率(%)：43.8(前年0)
- ・ スイーピング20振あたりの成虫数(頭/ほ場)：0.7(前年0)

防除のポイント

- ・ 越冬成虫は3月中下旬頃に水田へ飛来し、イネの葉脈に沿ってすじ状に食害する。その後水面下の葉鞘に産卵し、ふ化した幼虫は土に潜り根を加害するため、被害が大きい場合は欠株や生育異常を引き起こす。
- ・ 防除薬剤は、育苗時の箱施用が効果的である。
- ・ 成虫密度が高い場合は、定植1か月以内に本田防除を行う。
- ・ ほ場周辺のイネ科雑草は発生源となるので、除草を徹底する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
3月の発生量(現況)	やや少		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



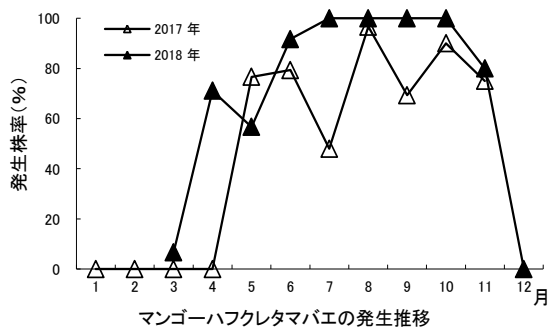
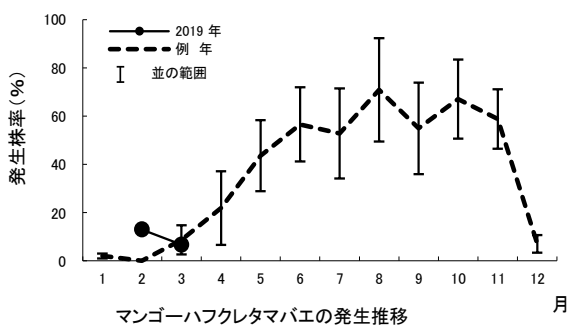
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 新葉あたり成虫・幼虫数(頭/葉)：0(前年0.1未満、平年0.3、判定「やや少」)
- ・ 黄色粘着トラップ誘殺虫数(頭/日)：0.2(前年0.2、平年0.2、判定「並」)

防除のポイント

- ・ 開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・ 開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 不要な新梢は、施設外に除去する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



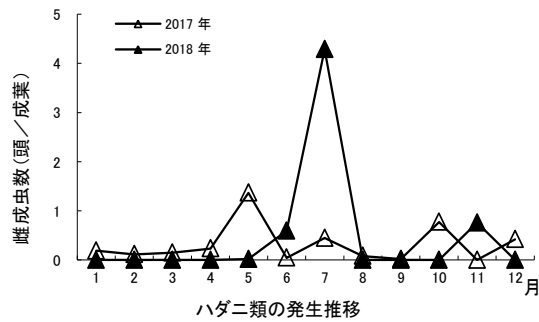
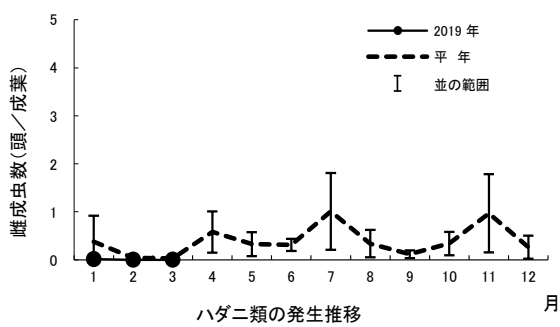
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発生株率（%）：6.7（前年6.7、平年8.7、判定「並」）

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		
3月の発生量（現況）		(発生なし)やや少	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		雌成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



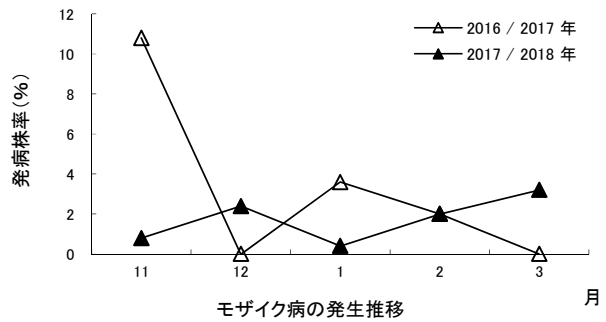
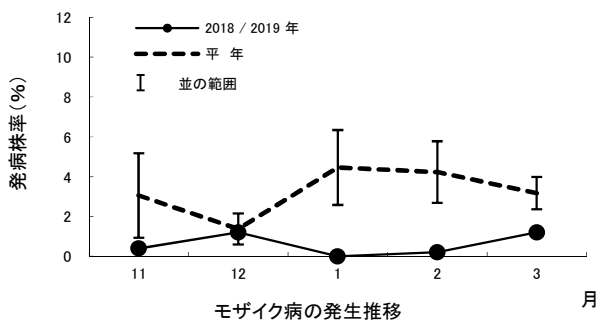
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成葉あたり雌成虫数（頭/葉）：0（前年0、平年0.1未満、判定「やや少」）
- ・ 新葉あたり雌成虫数（頭/葉）：0（前年0）

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 春、夏、秋の年3回程度発生ピークが見られるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	① モザイク病		
3月の発生量（現況）		やや少	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		媒介虫であるアブラムシ類の発生量が増加する見込みから、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



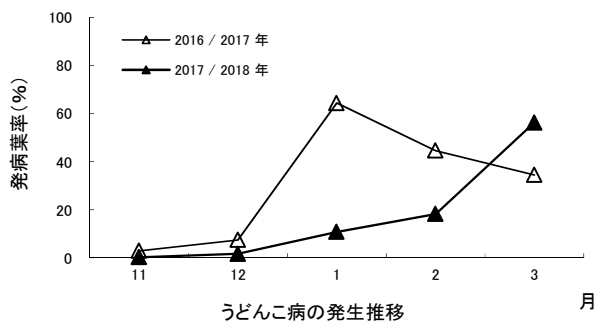
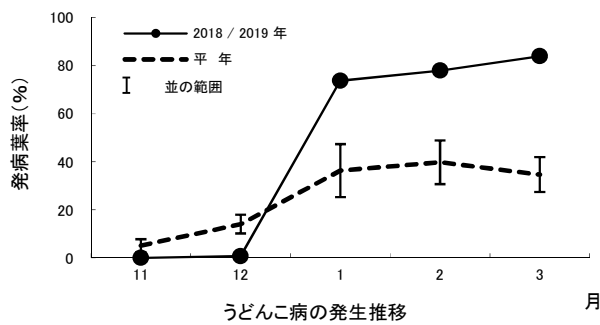
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病株率（%）：1.2（前年3.2、平年3.2、判定「やや少」）

防除のポイント

- ・ ソルゴーや防風ネット等の防風垣は収穫期まで残し、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 発病株は感染源となるので、見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	② うどんこ病		
3月の発生量（現況）	多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	果実の成熟に伴い、老化葉が増加することから、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



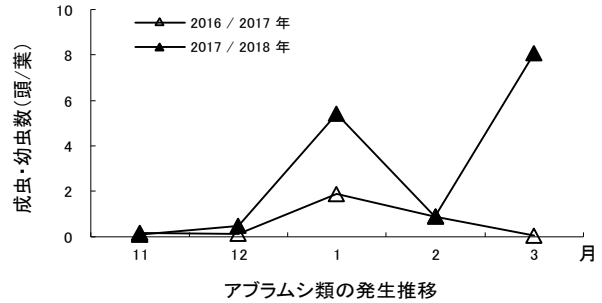
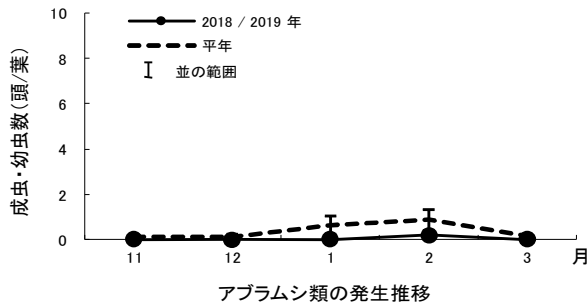
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病葉率（%）：84.0（前年56.2、平年34.7、判定「多」）

防除のポイント

- ・ 感染源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
3月の発生量（現況）	やや少		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）




- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫・幼虫数（頭/葉）：0.01（前年8.07、平年0.17、判定「やや少」）

防除のポイント

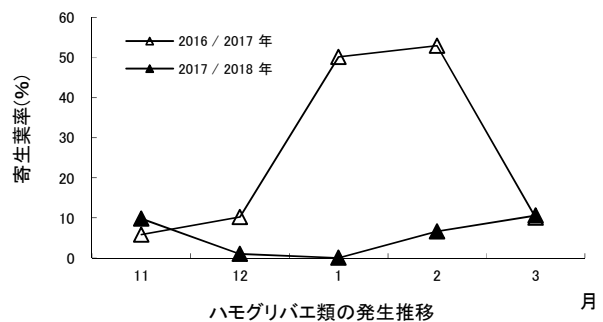
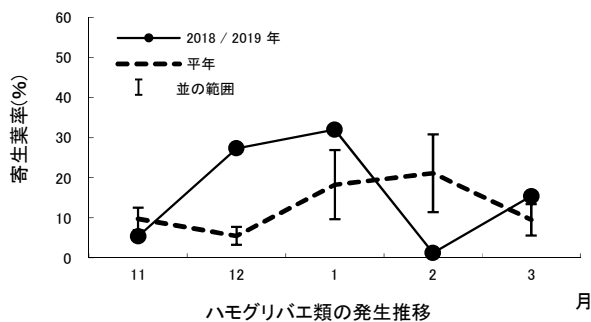
- ・ 本種はモザイク病を媒介する。
- ・ ソルゴーや防風ネット等の防風垣は収穫期まで残し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。



アブラムシ有翅虫

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
3月の発生量（現況）	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



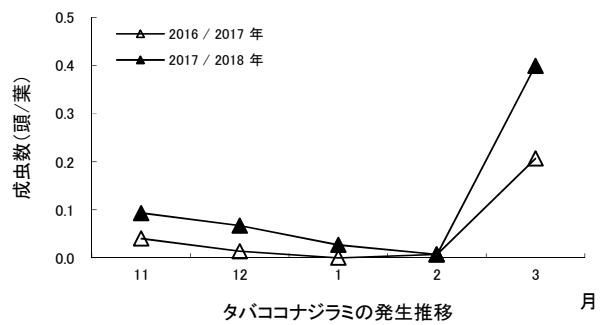
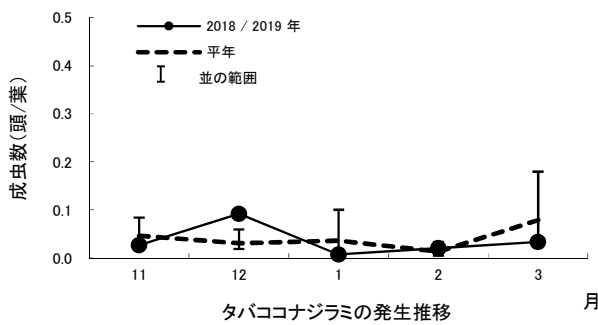
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 寄生葉率 (%)：15.4（前年10.6、平年9.5、判定「やや多」）
- ・ 被害葉率 (%)：69.6（前年58.2%）

防除のポイント

- ・ 多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌病が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・ 防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ タバココナジラミ		
3月の発生量（現況）	やや少		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）




- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫数（頭/葉）：0.1未満（前年0.4、平年0.1、判定「やや少」）

防除のポイント

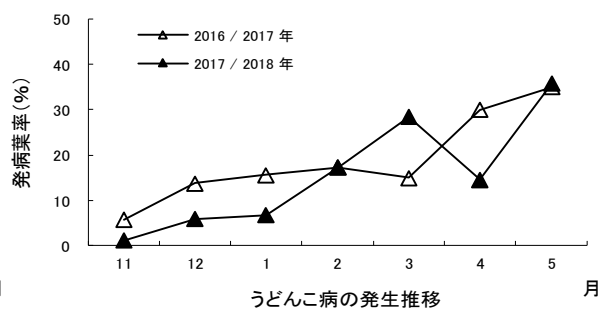
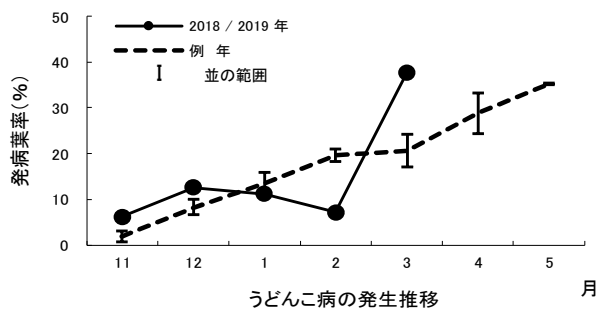
- ・ 多発すると葉にシルバリング症状を引き起こし生育不良となる場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



吸汁による葉のシルバリング

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
3月の発生量（現況）		多	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		発病葉率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



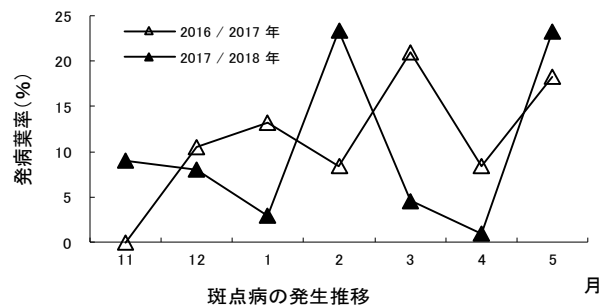
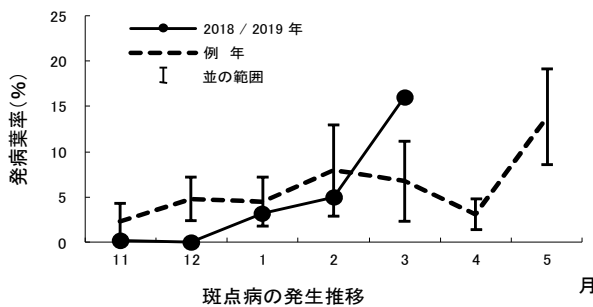
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病葉率（%）：37.8（前年28.4、例年20.6、判定「多」）

防除のポイント

- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点を置く。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	② 斑点病		
3月の発生量（現況）	やや多		
4月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	発病葉率の例年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



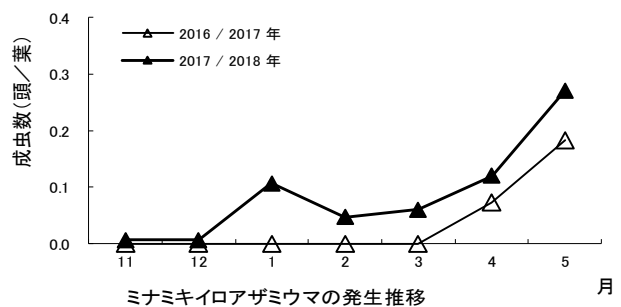
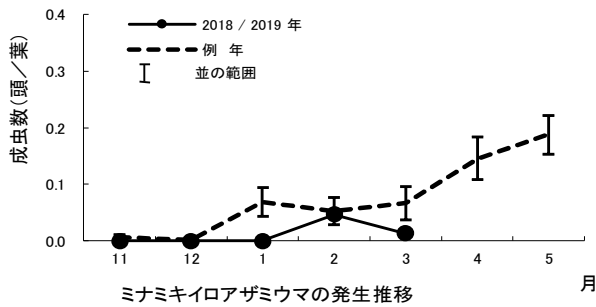
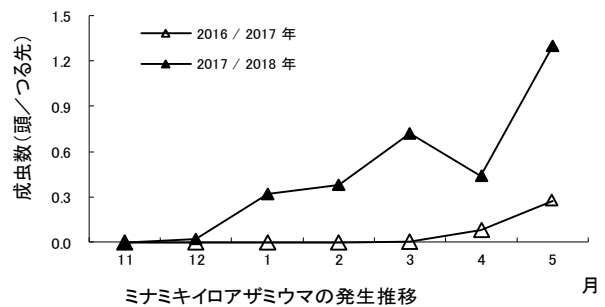
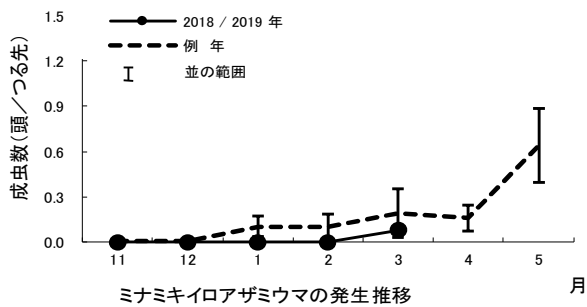
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病葉率 (%)：16.0（前年4.6、例年6.8、判定「やや多」）

防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
3月の発生量（現況）		並	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



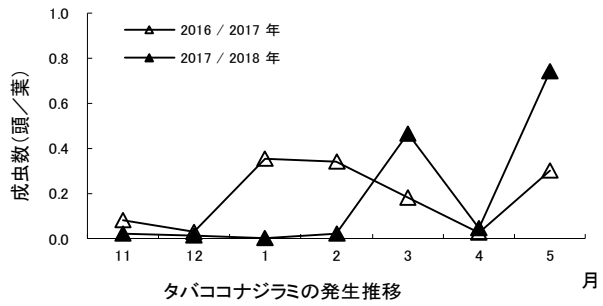
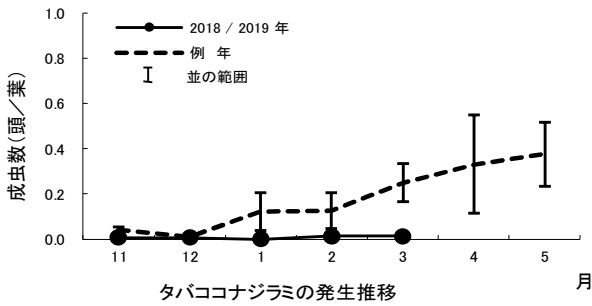
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ ミナミキイロアザミウマ成虫数（頭/つる先）：0.08（前年0.72、例年0.19、判定「並」）
- ・ ミナミキイロアザミウマ成虫数（頭/葉）：0.01（前年0.06、例年0.07、判定「やや少」）

防除のポイント

- ・ 本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
3月の発生量（現況）		少	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		成虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



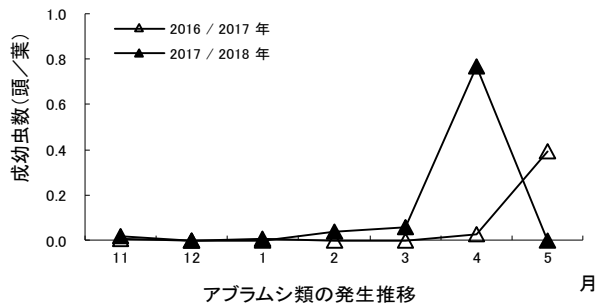
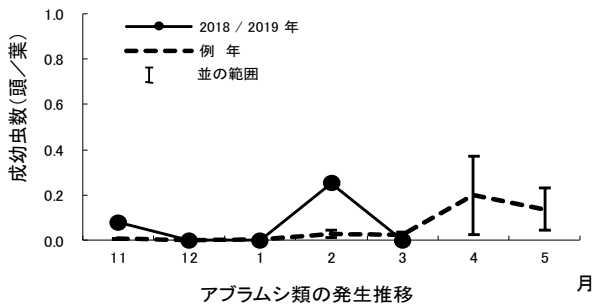
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫数（頭/葉）：0.1未満（前年0.5、平年0.2、判定「少」）

防除のポイント

- ・ 多発すると排泄物によるすす病が発生し、光合成を阻害する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類		
3月の発生量（現況）	(発生なし)やや少		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



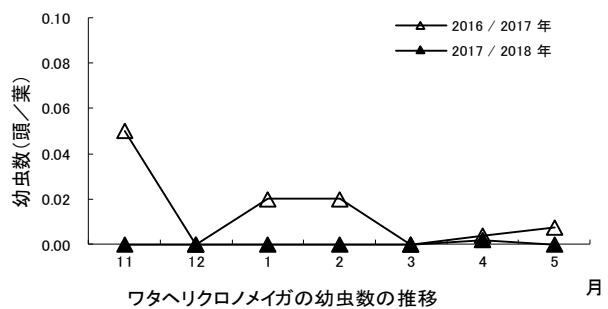
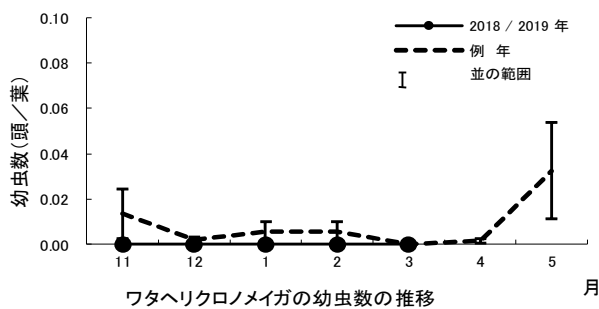
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫・幼虫数（頭/葉）：0（前年0.06、平年0.02、判定「やや少」）

防除のポイント

- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	ワタヘリクロノメイガ		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	幼虫数の例年の発生推移から、発生量は3月と同程度と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 幼虫数（頭/葉）：0（前年0、平年0、判定「並」）

防除のポイント

- ・ 若齢幼虫は表皮を残して食害するが、中齢以降の幼虫は葉を綴り合わせてその中で食害し、葉脈を残して食べ尽くすこともある。また果実表面やつるも食害する。
- ・ 中齢以降の幼虫は巻き葉内で生活し、薬効も低いので、若齢期の防除に努める。